# 新近江百景 ㉙ 五箇荘町金堂

絵・西川龍太郎氏

## 郷愁や懐かしさ誘う町並み

てんびん棒を担いで各地へ行商に出掛け、やがて豪商へと出世していった近江商人。発祥地の一つで、商人屋敷などの町並みを今にとどめる東近江市五個荘金堂町を訪ねた。

観光案内所に車を止め、北東へ。小川に沿って歩くと、左手に弘誓寺の大伽藍が見えてきた。幅三メートルほどの小川には色鮮やかなニシキゴイが悠々と泳いでいる。視線を先に向けると、白壁や土蔵など風情あふれる町並み。時間がゆったりと流れているようで、こちらもものんびりと歩く。すれ違った園児と母親が「こんにちは」と気さくに声を掛けてくれた。

一帯は平成十年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。選定理由の中にある「優れた和風建築群」は、出世後も決して郷里を離れることなく本宅を築いた近江商人たちの屋敷だ。

呉服商として大成した外村宇兵衛邸。万延元（一八六〇）年に建築が始まったという屋敷はまさに威風堂々。室内に入ると、柱や内壁、階段などから歴史の重みが伝わる。明治期には全国の長者番付に名を連ねたという豪商で、荷受帳や大福帳、そろばん、銭桝（ます）など商家ならではの展示品が目を引く。土間には、くどや、臼、きねなどのほか、人力車も。敷地は約二千七百平方メートルと広大で、こけむした庭園にはコイが泳ぐ池もあった。

## 威風堂々の商人屋敷

隣にあるのが宇兵衛家の分家で、作家として知られる外村繁邸だ。家業を弟に託して、文学の道に進み、野間文学賞を受賞したほか、数多くの作品を残した。邸内には、繁の足跡を紹介するパネルや作品の草稿などのほか、金堂尋常小学校時代の日誌、東大進学に当たって両親に出した手紙などが並ぶ。親交のあった井伏鱒二や梶井基次郎らと写した写真なども飾られ、湖国が生んだ作家の業績をたたえる文学館でもある。

金堂にあるもう一軒の商人屋敷の中江準五郎邸には、地元に伝わる土人形「小幡人形」が常設展示されていた。えとや金太郎、力士、一寸法師などをかたどった作品がずらり。特徴である鮮やかな色彩の人形たちは、今にも動き出しそうで、見ているだけで楽しい。

同市観光協会五個荘支部によると、金堂地区への観光客は年間約四万人で近年、増加傾向にあるという。中高年の観光客が多く「古い町並みが郷愁や懐かしさを誘い、訪れる人をほっとさせるんだと思います」と同支部の大角万智さん（三二）。古き良き時代の面影を残し、映画やテレビの撮影も多いという。

◇◇◇◇◇◇

宮庄地区の藤井彦四郎邸を含む四カ所の商人屋敷では五月二十八日まで「武者人形めぐり」が開かれている。代々伝わる武者人形五十セットを展示するほか、一六〇センチ以下の人を対象に、手づくりのよろいかぶと姿で写真撮影できるコーナーもある。東近江市観光協会五個荘支部＝電0748（48）2100。